

転落防止策強化早く

党都議団 交通局に申し入れ

日本共産党東京都議団は2日、都内の駅で乗客の転落・死亡事故が相次いでいることを受け、都営地下鉄を運営する都交通局の野澤美博局長宛てに、すべての駅で可動式ホーム

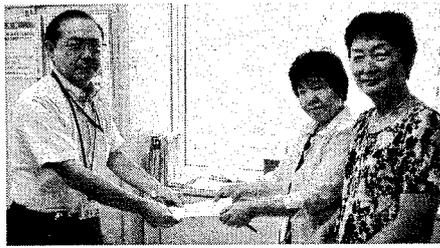
柵(ホームドア)を設置するなど、転落防止策を強化するよう申し入れました。大山と子幹事長、あぜ上三和子都議が申し入れ書を手渡しました。

国土交通省のホームドア整備についての検討会は8月、利用者10万人以上の駅での整備を優先する方針を示しましたが、利用者10万人未満の駅にも設置することを求めています。

対応した交通局の宮川昭総務部長らは「極めて重要な事項だと認識している」とし、全27駅にホームドアを設置した三田線を除く3路線のうち、大江戸線では2013年6月に全38駅での設置が完了予定であることを紹介。京成電鉄など4社が乗り入れる浅草線については「車両ごと

のドアの位置が異なるなど」技術的に難しい」とし、京王電鉄が乗り入れる新宿線については「今年1月から、京王電鉄と問題解決に向けた協議に着手している」ことを明らかにしました。

あぜ上都議は「駅の安全対策は待ったなしの問題。人員の増配置など多様な対策を講じてほしい」と訴えました。



申し入れ書を手渡す(右から)大山・あぜ上都議。2日、東京都庁